



国民の森林・国有林

広報

かなぎ

津軽森林管理署 金木支署

No 177

2005.4.25



挨拶する岡崎支署長

「地域に根ざした親しまれる金木支署」から

さらに「信頼される金木支署」に向けて

平成17年度の事業開始に当たり、職員間の共通の認識を図るため4月14日、定例出署日を開催。会議の冒頭、支署長から概要、次のように挨拶がありました。

いよいよ、平成17年度がスタートしました。昨年来取組んで頂いた業務予定も承認され、スムーズに新年度に入ることができました。

今年度の業務予定については、収入予定が約2億円であり、昨年の6割となっています。これは、収入のほとんどを占める林産物の販売による収入が減少したことによるものであり、支署の資源状況や木材価格の低迷が反映されたものと考えております。

しかし、これとて確保は生易しいものではなく、請負生産においては、市場ニーズに応じた採材等の努力をしていかなければなりませんし、また、立木販売においては分収育林の主伐（皆伐）が出てきますので、公売案内の範囲の検討や宣伝活動が重要になってくると考えています。

支出については、状況が厳しく保育に関する経費が減少していますが、重機廃止に伴うチャーター経費については十分配慮頂いたものと思っています。予算の執行に当たっては、その枠が決まっているものの効率的な使用により経費削減に努めていかなければなりません。

さて、昨年度は、当支署の敷居が高いと言われないよう「地域に根ざした親しまれる金木支署」をキャッチフレーズに地域社会との連携を図りながら努めてきましたが、今年度は、一歩進めて「地域に根ざした信頼される金木支署」を目指して、適切に国有林の管理経営を行っていきたいと考えています。

昨年度は、県道への風倒木被害や地滑り災害、「えぞ館」保全の要請、外国船籍船舶の座礁などに迅速に対応して頂きました。今年度も対外的な事案については特に迅速に対応すると共に、

地域社会から非難されることのない細心の事業実施を心掛け、名実共に地域から信頼される金木支署を目指したいと考えています。そのためには、森林官の地域での情報収集等、我々のアンテナを高くしておく必要があります。

また、今年度は、国有林の地域別の森林計画など4つの計画策定の準備年度であること、加えて、会計検査が5月中旬に実施されることから多忙な一年になりますが、これらは不可避の事案であり、悩むより、とにかく前向きに対処していかなければならないものと考えています。どちらも支署を挙げて対応しなければならないものであり、ご協力を宜しく願います。

計画策定準備に関しては、国有林の使命の一つである木材の供給のためのヒバ等の伐採可能箇所の把握が大きな柱となります。また、ヒバ地帯にある当支署にとってヒバ林再生が大きな課題であり、ヒバ林へ移行させるべき造林地の把握も必要と考えています。これらのことについては、森林官の活躍に負うところが大きく、自らが担当する部内の精査をお願いします。

更に、季節柄、山火事防止に努めなければなりませんし、融雪による災害で地元被害が及ぶことの無いようにしなければならぬと考えています。強い雨が降った時などは近くの河川の状況を見回り、大きな濁りの有無や樹木等が流れてきていないかなどの把握に努めて頂きたいと考えていますので、併せて宜しく願います。

今年度も、関係事業体共々労働災害も無く、健康で明るく、支署に課せられた課題を遂行していきたいと考えていますので、宜しく願います。

「広報かなぎ」はホームページでもご覧いただけます。(アドレス) <http://www7.ocn.ne.jp/~kanagi>
037-0202 青森県五所川原市金木町芦野200-498 TEL(代)0173-53-3115・FAX 0173-53-3197

山火事警防パレード実施 **燃やすまい 国の宝だ 森林資源**

今冬は記録的な豪雪となり、山にはまだ雪が残っていますが、里山では融雪が進み今年もいよいよ山火事発生の危険期になりました。

4月15日、西北地方農林事務所、消防署、五所川原市、当支署等の関係機関による「山火事防止宣伝パレード」と、市内のショッピングセンターでは緑の羽根募金とキリンツツジ等苗木の無償配布が行われ、市民らに山火事防止の大切さをPRしました。

⇒
緑の羽根募金と苗木の無償配布



収穫調査現地検討会を開催

旧青森・秋田局がそれぞれに制定し、適用してきた収穫調査規程が一本化され、従前の調査方法と変わる部分が出てきたことから、改正点の徹底を図り、適切な収穫調査実施の観点で、4月22日、署内、森林官、現場班及び森林技術センターの30余名が現地に集合して検討会を行いました。

富樫業務課長挨拶の後、平山経営係長が変更になった主要なことからについて説明を行い、参加者個々が立木の標示等を行うなどして理解を深めました。

⇒
テープ標示中



私の守備範囲

- こんなところです -

市浦上級森林事務所

首席森林官 山形 正人

当該森林事務所管内は、旧市浦村の太田地区を除く全域となっています。その一部は津軽国定公園に指定され、さらには、全国的に有名な「十三湖のしじみ」の産地も含まれます。

この地は、国有林の公益的機能なくしては、生活が成り立たないほど重要なクロマツの防風林があります。これは、日本海からくる潮風と砂を防ぐ役割を担っています。

ここには、幼齢樹から樹齢約90年に達する多様なクロマツが生育しており、これは、明治の時代から諸先輩方が大変な苦勞をして整備育成したものです。

しかし、最近、高齢樹の倒木が目立って増えてきており、懸念すべき問題となっています。原因は、水害、害虫及び寿命だと思っています。なかでも、寿命が最大の原因だと私は考えています。このまま倒木が増加すれば、この地域での生活そのものに多大な影響を及ぼすことは間違いありません。

今後、マツノザイセンチュウ等の問題も含めながら、この防風林をいかにして更新していくかが、この地域における国有林野事業の課題だと、自分なりに考えています。



適切に管理れている保安林

4月人事で転入された皆さんを紹介します

業務課長 富樫 定史 出身地 秋田県大曲市



4月1日付けで業務課長に任命されました富樫です。専攻課を終了後、津軽森林管理署で、総務第一係長2年、業務第一課長2年と、計4年間在籍しておりました。まだまだ勉強することが多く、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

治山第一係長 津内口 英諭 出身地 岩手県久慈市



4月1日付けの異動で、金木支署の治山第一係長としてお世話になることになりました。まだ、現場も把握しておりませんが、できるだけ早く仕事の流れをつかみ、皆様にご迷惑をおかけしないよう、頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

販売係 田中 瞳 出身地 岩手県岩手町



4月から新しく入りました田中瞳です。まだ、わからないこともたくさん有り、周りのみなさんに迷惑をおかけすることもあると思いますが、頑張りますのでよろしくお願ひします。